

令和6年度 北九州市港湾空港局 当初予算概要

1 予算の総額と前年度比較

(単位：千円)

会 計	令和6年度 当初予算額 (A)	令和5年度 当初予算額 (B)	増減額 (C)= (A-B)	増減率 (C)÷(B)
2款 総務費 (空港関連予算)	1,639,265	1,207,799	431,466	35.7%
10款 港湾費	9,097,679	13,387,731	▲4,290,052	▲32.0%
一般会計 計	10,736,944	14,595,530	▲3,858,586	▲26.4%
港湾整備特別会計	5,108,800	4,189,500	919,300	21.9%
土地取得特別会計	11,241	120,590	▲109,349	▲90.7%
空港関連用地整備 特別会計	3,500	3,600	▲100	▲2.8%
臨海部産業用地貸付 特別会計	637,600	952,600	▲315,000	▲33.1%
市民太陽光発電所 特別会計	105,000	112,000	▲7,000	▲6.3%
特別会計 計	5,866,141	5,378,290	487,851	9.1%
合 計	16,603,085	19,973,820	▲3,370,735	▲16.9%

2 主要施策

「稼げるまち」

- ・ 港湾では、新たな港湾計画に基づき、機能強化と利用促進、2024年問題対応、港湾施設マネジメントの推進、風力発電関連産業の総合拠点化等に取り組む
- ・ 空港では、滑走路延長を契機とした国内外の航空物流貨物の取り込み、航空旅客ネットワークの拡大、機能強化と魅力向上等に取り組む

「彩りあるまち」

- ・ 国内外からの観光客を呼び込むため、北九州市の玄関口である港湾と空港のイメージアップに取り組む

「安らぐまち」

- ・ 市民の安全・安心を守るため、港湾において防災・減災機能の強化等に取り組む

1 北九州港

(1) 北九州港の機能強化

アジアをリードする「物流拠点」を目指し、コンテナターミナルの機能強化（太刀浦地区）やフェリー・ROROの拠点化（新門司地区）に取り組み、稼げる基盤をつくる。

《主な事業》

- ・ 新規) 新門司地区ROROターミナル機能強化検討事業(特会) 【28百万円】
- ・ 新規) 太刀浦地区施設整備調査検討事業 【10百万円】
- ・ 拡充) 太刀浦コンテナターミナルクレーン更新事業(特会) 【737百万円】



【新門司フェリー・RORO基地】



【太刀浦コンテナクレーン】

(2) 北九州港の利用促進

北九州港の航路維持・拡大及び集貨拡大を目的として、新たな航路・貨物に対する補助を行う。

《主な事業》

- ・ 新規) 海上モーダルシフト促進事業 【7百万円】
- ・ 拡充) 港湾利用促進支援事業(特会) 【89百万円】



【フェリー・RORO船】

(3) 港湾施設マネジメントの推進

港湾施設の集約・利用転換、民間活力の導入による施設の再配置を行うことを目的として、計画作成に必要となる現地測量や利用状況の調査・分析等を行う。

《主な事業》

- ・ 新規) 港湾施設マネジメント推進事業(特会) 【22百万円】
- ・ 拡充) 港湾施設マネジメント推進事業 【8百万円】

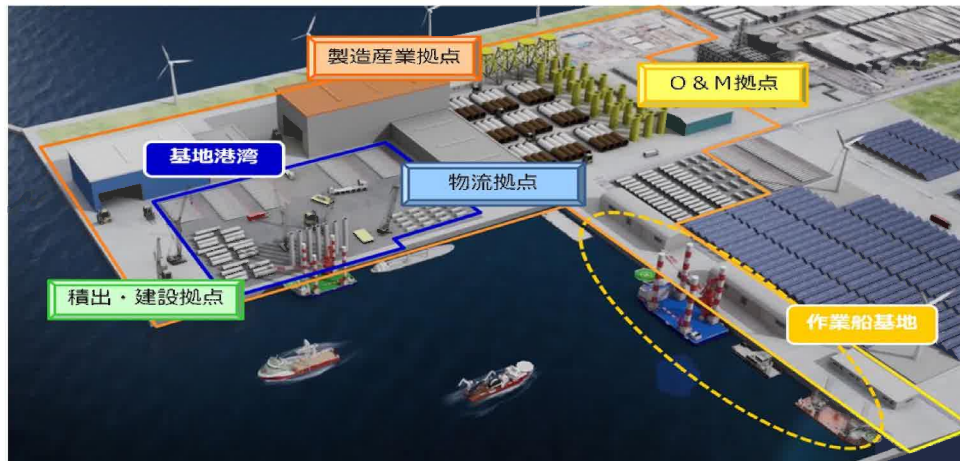
(4) 風力発電関連産業の総合拠点化

洋上風車の積み出しなどの機能を担う基地港湾、特殊作業船（SEP船等）基地、産業用地への企業誘致に必要な公共インフラの整備を行う。

また、響灘西地区において、浮体式拠点形成に向けた活用方法の検討に必要な測量や地質調査を行う。

《主な事業》

- ・新規) 響灘西地区埋立地活用検討事業 【19百万円】
- ・拡充) 響灘東地区埋立地整備事業 【871百万円】
- ・響灘洋上風力発電拠点化推進事業 【9百万円】



【風力発電関連産業の総合拠点化のイメージ(響灘東地区の一部)】

(5) カーボンニュートラルポート（CNP）の形成

官民連携による港湾脱炭素化の取組の創出や推進を目的として、港湾脱炭素化推進協議会の開催や船舶の脱炭素化に必要な陸上電力供給施設の導入検討等を行う。

《主な事業》

- ・カーボンニュートラルポート(CNP)推進事業 【10百万円】

(6) みなとの賑わいの創出

みなとを核とした賑わいの創出のほか、ブランド力の向上や国内外の観光客の呼び込みを図る。

《主な事業》

- ・拡充) クルーズ船誘致・受入事業 【41百万円】
- ・新規) みなとオアシス推進事業 【2百万円】



【クルーズ船】

(7) 防災・減災対策

高潮の災害から立地企業を守ることを目的として、護岸整備（新門司地区）を行う。

《主な事業》

- ・拡充) 海岸（高潮）事業 【50百万円】



【新門司地区】

2 北九州空港

(1) 旅客・アクセス

旅客便・貨物便の受入に向け、地上支援業務従事者不足の解消を目的に、通勤環境改善などの新規雇用促進支援を実施する。

バス、鉄道などの多様な交通手段を生かした空港アクセス強化を目的に、エアポートバスの増便(小倉・朽網)や鉄道との乗継強化、バス待合環境向上などを実施する。

《主な取組み》

【旅 客】

- ・新規) 空港受入体制強化事業 【14百万円】
- ・新規) 航空路線支援事業 【135百万円】
- ・国内集客促進事業 【26百万円】

【アクセス】

- ・新規) 空港アクセス強化事業 【120百万円】
- ・空港アクセス事業 【132百万円】
- ・新規) イノベーション空港推進事業 【5百万円】



【国内外の航空機】



【エアポートバス】

(2) 貨物

2024年問題や脱炭素社会など、次世代物流の構築を目的に、国内貨物定期便の集貨支援や半導体貨物への重点的な集貨支援を実施する。

《主な取組み》

- ・新規) 次世代航空物流構築事業 【65百万円】
- ・航空物流支援推進事業 【308百万円】



【国内貨物定期便】

(3) 機能強化

市の認知度向上・ブランディングを目的に、魅力ある旅客ターミナルビルへのアップデートに向けた、調査・検討を実施する。

滑走路延長を機に、長距離運航便の就航に向け、空港の機能強化を目的に、航空燃料タンクの増設などの必要な施設整備に関する調査を実施する。

《主な取組み》

- ・新規) 空港ターミナルビル魅力向上事業 【2百万円】
- ・新規) 次世代空港機能強化検討事業 【15百万円】



【旅客ターミナル】



【国内第2貨物上屋】